



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月12日

上場会社名 テルマー湯ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3521 URL <https://thermae-yu-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木隆太
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部 部長 (氏名) 野村嘉之 TEL 03-6418-4391
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	1,999	33.0	237	△5.3	237	△4.5	126	△18.3
2025年3月期第3四半期	1,503	7.6	251	129.2	248	135.4	154	304.7

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 126百万円 (△18.3%) 2025年3月期第3四半期 154百万円 (304.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	4.78	4.72
2025年3月期第3四半期	5.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	6,068	4,929	81.0
2025年3月期	6,090	4,924	80.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 4,913百万円 2025年3月期 4,919百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	—	—	5.00	5.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,750	38.9	375	10.0	370	9.1	235	23.0	8.88

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 青柳食品販売株式会社、除外 1社 (社名) ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	26,466,366株	2025年3月期	26,466,366株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	16,283株	2025年3月期	14,733株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	26,450,868株	2025年3月期3Q	26,453,666株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サービス需要やインバウンド需要が引続き好調だったことから、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、消費者物価の上昇や米国の関税政策の不安などにより、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは中核事業である「温浴事業」を中心として「不動産事業」と併せて事業展開してまいりましたが、既存の事業では温浴事業にウェイトが偏りすぎていることと、今後の企業グループ拡大の一環として、2025年7月に「食品事業」を手掛ける「青柳食品販売株式会社」の全株式を取得し子会社化いたしました。これにより、当社グループは「温浴事業」、「不動産事業」及び「食品事業」を展開することとなりました。

また、中核事業である温浴事業のブランド力強化と今年12月に迎える当社創業100周年を契機として2025年10月1日より社名を「エコナックホールディングス株式会社」から「テルマー湯ホールディングス株式会社」へと変更いたしました。

当社グループの主力である温浴事業では、東京都新宿区歌舞伎町にて事業展開する温浴施設「テルマー湯 新宿店」におきまして、当第3四半期連結累計期間の入館者数は前年同期と比べ1.2%減少し、23万9千1百人となりました。入館者数の微減につきましては、インバウンド需要が好調だったことによる外国人観光客が増加した一方で、国内においてはインフレに伴う物価上昇により個人の遊興支出を控える傾向が続いたと考えております。そのような中、集客活動といたしましては、昨年に引続き季節ごとのフェアを開催し、レストランのメニューなども定期的に入替えてリピーターを飽きさせないよう努めております。新宿店につきましては、8月をもちまして開業から10周年を迎えました。特別イベントとしてランニング、ヨガなどのウェルネス関連のイベントを開催したほか、有名アウフギーサーを招いてのスペシャルアウフグースの開催やレストランでの記念メニューの提供など様々な10周年記念イベントを開催いたしました。また、地下1階のレストランの一部をくつろぎスペースへとリニューアルするため改装工事を行い、7月1日に「リラックス&コワーキングラウンジ」として新たにオープンいたしました。追加料金なしでお客様にご利用いただけるパーソナルスペースとなっており、寝転んでご利用いただけるリラックススペースが24床、デスク席でパソコン作業などが行えるコワーキングスペースが11席で全床、全席コンセント付きとなっております。さらに12月12日から館内の全てのドライヤーとシャワーヘッドを高級製品にアップグレードいたしました。従来と比べ、より高機能なドライヤー&シャワーヘッドをお試しいただけます。これら多数のイベントや施設内のリニューアルなどで新規顧客の増加にも注力いたしました。また、ご利用時間の改定を行い、10月1日から従来の最大12時間利用から同料金で最大24時間利用可能といたしました。さらに、11月26日から深夜早朝料金発生の対象時間を従来の0時～9時在館から0時～6時在館とし、6時～9時にご入館されたお客様は実質値下げとなるよう改定いたしました。これにより朝風呂を、より手ごろな料金でお楽しみいただけるようになり集客力アップにつながりました。

東京都港区西麻布で事業展開する「テルマー湯 西麻布店」におきましては、当第3四半期連結累計期間の入館者数は前年同期と比べ0.7%増加し、6万6千9百人となりました。西麻布店につきましては、開業から3年目のまだまだ伸びしろのある店舗となりますので、引続き有名アウフギーサーを多数ゲストに迎え、アウフグースに特に注力して他店との差別化を図っております。10月にAufgus WM2023世界チャンプのKUROKAWAさんをゲストにお迎えした際には交流会なども開催してお客様にお楽しみいただきました。また、9月には施設内に新たなリラクゼーションサロンとして「RESET LABORATORY (リセット ラボラトリー)」がオープンし、ヘッドスパでの極上のリラックスを提供しております。

その結果、温浴事業の売上高は前年同期に比べ2.5%増加し1,502,171千円、営業利益は前年同期に比べ5.5%増加し366,985千円となりました。

不動産事業では、東京都港区西麻布に所有する「エコナック西麻布ビル」の住居部分の賃貸収益につきまして、継続して安定した収入を得ることができました。

その結果、不動産事業の売上高は前年同期に比べ5.8%減少し35,687千円、営業利益は前年同期に比べ2.5%増加し12,606千円となりました。

食品事業では、7月から当社の子会社となった青柳食品販売株式会社が食品、食材、健康食品の企画開発、OEM製品の受諾、卸売等を行っております。大手コンビニ・スーパー向けのおにぎり、調理麺等の具材の販売が順調だったほか、お惣菜・弁当用の混ぜご飯の素なども順調に推移いたしました。また、ペット用のレトルトの食品製造は大変好調に伸びました。ペットフード業界においては近年、ペットを家族同様に大切にする風潮の高ま

りを背景に大きく拡大しております。当社グループにおきましても、飼い主様とペットと一緒に共有出来る安心・安全なおやつ、アイス、防災食などを企画開発しており、「Chillワンシリーズ」として12月よりECサイトでの販売を開始いたしました。これまで食品業界においての商品開発、品質管理の経験を活かし、食品会社だからこそ出来る、安心・安全な品質重視をコンセプトとしたオリジナリティーのあるペットフード関連の開発、販売にも注力いたしました。しかしながら、のれんの償却額を12,320千円計上したことにより営業損益は損失となりました。

その結果、食品事業の売上高は461,310千円、営業損失は3,406千円となりました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同期に比べ33.0%増加し1,999,168千円となりました。営業利益は前年同期に比べ5.3%減少し237,720千円、経常利益は前年同期に比べ4.5%減少し237,530千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ18.3%減少し126,333千円となりました。

なお、親会社株主に帰属する四半期純利益が減少した主な要因は退任取締役に対し、役員退職慰労金25,000千円を支払ったことによるものであります。また、2025年6月27日開催の第145回定時株主総会決議により56年ぶりとなる期末配当が承認され支払った結果、利益剰余金が132,258千円減少しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の減少などにより前連結会計年度末と比較して22,228千円減少し、6,068,509千円となりました。

負債は、長期借入金の減少などにより前連結会計年度末と比較して26,731千円減少し、1,139,099千円となりました。

純資産は、新株予約権の増加などにより前連結会計年度末と比較して4,502千円増加し、4,929,410千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年7月17日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,502,403	1,248,328
売掛金	95,453	224,415
商品	1,887	29,965
原材料及び貯蔵品	2,194	7,067
その他	5,495	19,775
貸倒引当金	△431	△785
流動資産合計	1,607,002	1,528,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,272,712	2,143,427
機械装置及び運搬具(純額)	32,667	37,268
工具、器具及び備品(純額)	72,741	59,996
土地	1,834,794	1,834,794
建設仮勘定	14,980	2,099
有形固定資産合計	4,227,895	4,077,586
無形固定資産		
借地権	83,445	83,445
ソフトウェア	4,225	3,251
電話加入権	1,528	1,528
のれん	—	193,878
無形固定資産合計	89,199	282,104
投資その他の資産		
投資有価証券	600	600
繰延税金資産	—	11,180
その他	166,723	168,952
貸倒引当金	△683	△679
投資その他の資産合計	166,639	180,052
固定資産合計	4,483,735	4,539,743
資産合計	6,090,738	6,068,509

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,382	180,919
1年内返済予定の長期借入金	195,398	197,732
未払金	51,472	68,408
未払法人税等	73,723	37,435
契約負債	16,523	17,846
前受金	5,348	6,418
賞与引当金	5,987	3,938
株主優待引当金	2,466	914
その他	86,877	65,086
流動負債合計	475,179	578,699
固定負債		
長期借入金	405,272	273,784
繰延税金負債	31,964	31,010
再評価に係る繰延税金負債	10,296	10,296
資産除去債務	239,169	241,255
長期預り金	3,948	4,053
固定負債合計	690,651	560,399
負債合計	1,165,830	1,139,099
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	4,235,309	4,235,309
利益剰余金	568,380	562,455
自己株式	△3,117	△3,360
株主資本合計	4,900,572	4,894,404
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	18,765	18,765
その他の包括利益累計額合計	18,765	18,765
新株予約権	5,569	16,240
純資産合計	4,924,907	4,929,410
負債純資産合計	6,090,738	6,068,509

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	1,503,024	1,999,168
売上原価	1,128,234	1,558,966
売上総利益	374,790	440,201
販売費及び一般管理費	123,659	202,481
営業利益	251,130	237,720
営業外収益		
受取利息	95	1,350
受取手数料	813	1,207
固定資産賃貸料	420	384
受取保険金	382	342
受取家賃	636	866
受取補償金	973	544
その他	314	104
営業外収益合計	3,635	4,799
営業外費用		
支払利息	6,126	4,973
その他	44	16
営業外費用合計	6,171	4,990
経常利益	248,594	237,530
特別利益		
債務免除益	—	7,280
特別利益合計	—	7,280
特別損失		
固定資産除却損	0	4,424
役員退職慰労金	—	25,000
特別損失合計	0	29,424
税金等調整前四半期純利益	248,594	215,385
法人税、住民税及び事業税	89,822	99,755
法人税等調整額	4,191	△10,703
法人税等合計	94,013	89,051
四半期純利益	154,581	126,333
親会社株主に帰属する四半期純利益	154,581	126,333

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	154,581	126,333
四半期包括利益	154,581	126,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154,581	126,333
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	温浴	不動産	合計
売上高			
温浴 施設利用料等	1,042,722	—	1,042,722
温浴 その他のサービス等(注1)	421,914	—	421,914
不動産賃貸 管理サービス等	—	2,096	2,096
顧客との契約から生じる収益	1,464,636	2,096	1,466,732
その他の収益(注2)	496	35,795	36,292
外部顧客への売上高	1,465,133	37,891	1,503,024
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,465,133	37,891	1,503,024
セグメント利益	348,015	12,294	360,309

(注1) 温浴 その他のサービス等は、飲食、マッサージ等による売上高になります。

(注2) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等になります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	360,309
全社費用(注)	△109,178
四半期連結損益計算書の営業利益	251,130

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	温浴	不動産	食品	合計
売上高				
温浴 施設利用料等	1,057,002	—	—	1,057,002
温浴 その他のサービス等（注1）	444,671	—	—	444,671
不動産賃貸 管理サービス等	—	1,718	—	1,718
食品販売	—	—	461,310	461,310
顧客との契約から生じる収益	1,501,674	1,718	461,310	1,964,702
その他の収益（注2）	496	33,969	—	34,466
外部顧客への売上高	1,502,171	35,687	461,310	1,999,168
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,356	—	1,356
計	1,502,171	37,043	461,310	2,000,524
セグメント利益又は損失（△）	366,985	12,606	△3,406	376,185

（注1）温浴 その他のサービス等は、飲食、マッサージ等による売上高になります。

（注2）その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等になります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

中間連結会計期間において、青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの資産の金額は、「食品」事業において422,423千円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	2,000,524
セグメント間取引消去	△1,356
四半期連結損益計算書の売上高	1,999,168

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	376,185
全社費用（注）	△138,465
四半期連結損益計算書の営業利益	237,720

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

中間連結会計期間より、青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い「食品」の報告セグメントを新たに追加しております。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「食品」事業において、青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては200,719千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当該事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	227,155千円	239,803千円
のれんの償却額	—	13,681